

平成20年6月定例会

一般質問 宇野俊市

シリーズ

“日本が破綻する”前に、
玉野市の再生を！

私は、8年間にわたって議会で訴え続けてまいりました。

去る5月29日、ついに、石井知事が、岡山県が破綻すると訴えました。

「地方自治体財政健全化法」の成立により、来年秋にも、同法の健全化判断比率が公表される予定になっており、特に、連結実質赤字比率や、将来負担比率、また公営企業会計ごとの資金不足比率といった、新たな財政指標が全団体に公表されるようになるからだと考えます。

本論に入ります。

一、「答えのない世界」を 生き抜く教育改革を！

(一)「答え」を教える教師は “時代遅れ”

教育「再生」ではなく 根本的な改革を！

21世紀は答えのない時代だと言われます。また一方で、「答え」を教える教師は、世界水準からは時代遅れとの声があります。

そこで、「答えのない世界を」生き抜くための教育改革について、国の文部科学省の教育再生会議の報告等を交えて、教育長に具体的に私の思いを質問と提言いたしたいと思えます。是々非々主義での

御答弁をよろしくお願いいたします。

教育再生会議が今年1月31日に出した最終報告「社会総がかりで教育再生を（教育再生の実効性の担保のために）」について、わたしは本質的な提言が何もないように感じました。

いじめ、ゆとり教育の弊害、画一主義、形式主義、閉鎖性、隠蔽主義、悪平等、事なかれ主義といった問題を羅列し、それを逆さまにして解決策だと言っています。私の採点では落第点です。

過去3次にわたる教育再生会議の提言に基づいて実施された制度改革や予算確保などの取組も、完全に的外れだと思います。たとえば、教員免許更新制度の導入は、10年に1回、教員免許を見直すといいますが、自動車学校の実地試験免除と同じく講習を受けた教員は全員更新できることになっていきます。つまり、講習を受けられないほどのダメ教員を取り除く効果しかなく、教員の能力向上には全くつながらないと思えます。あるいは、大学9月入学を促進するために4月入学原則を撤廃するといえます。新年度は夏休みに十分遊んだ後のスタートがよいというのですから、それなら3月の春休みをもっと長くしても同じだろうと考えます。

そもそも教育「再生」という言葉自体が間違っているように思います。再生とは、昔は良かったけれども悪くなったから元に戻すという意味です。しかし、ゆとり教育をやめ、徳育を充実させて、いじめやニートやフリーターを減らしてみたところで、日本の本質的な問題は解決しないと考えます。仮に100%昔の教育に戻ったとしても、この先、日本がBRICS（ブラジル、ロシア、インド、中国）などの振興経済国と対等に戦えるよ

うにはならないでしょう。

これまでの日本の教育は「答えがある」という前提に基づいていました。先生は文部科学省が作った指導要領に沿って答えを教え、それを児童・生徒・学生が覚えたかどうかをテストでチェックするだけだったと思います。工業化社会の均一化した労働者を作るための教育ならそれでよかったです。その時代はすでに終わっています。

21世紀の今日では、答えがあるものに関してはインターネットで検索すれば即座に誰でもわかる時代ですから、世界は答えのないものに取組むことに価値を置く時代に突入しているのです。

現実に、アメリカの高校で、「カンニング」を容認するようになってきたというのです。

だから今の日本の教育では時代に対応できず、世界に後れをとっているといわれます。指導要領があるということは、文部科学省はすべての質問に答えがある、という前提で考えています。

いま問わなければならぬのは、その前提が正しいかどうかなのです。

教育再生会議では、そういう問題が全く議論されていません。過去の報告にも最終報告にも書いていないのです。発想を逆転させ、21世紀の世界はどう変化しているのか、なぜ日本は長期衰退傾向に陥っているのか、それを反転して発展するにはどのような人材が必要なのか、その人材を作るために学校ができることは何なのか、という順序で考えたら、今回のような報告は出てくるはずがないと思います。

私が考える21世紀の教育の目的は、

どんな新興経済国や途上国が追い上げてきても、日本がメシを食べていける人材、言い換えれば、答えがない世界で果敢にチャレンジして、生き残れる人材を生み出すことです。そういう人を何人育成できるかで、今後の国力は決まってくると思います。人材なくして「国家百年の大計」は成り立ちません。だから、教育プログラムは再生して昔に戻すのではなく、根本から全面的に変えなければならぬと考えます。

以上、答えがない21世紀（世界）の対処法について、

教育長の御所見を賜りたいと存じます。

※（一回目の質問終了）

義務教育は「社会人」を、 大学は「メシの食える人」を作れ

では、答えがない世界で生き残って行くにはどうすればよいのでしょうか？

答えはなくとも、答えの見つけ方を自分なりに確立することが大切であると私は考えています。

たとえば、松下幸之助氏は小学校しか出ておられませんが、質問が天才的にうまかったといわれています。懸案事項があると「あんたはどう思うかね？」と必ず3人以上に質問し、自分がベストと判断した回答者に「あんたしかおらんは、あんたに頼むわ」と権限を委ねたといわれています。

答えがない時代になった以上、先生は「答えを教える」ことはできないのだから、子供たちが「答えを探して見つける」ための道筋を立てる伴奏者になるべきではないでしょうか。

ゴルフに例えると、確かなことはティーグラウンドがあり、遠くのグリーン上にカップがあるということだけです。その間を何番のクラブで、どんな方向に、どう打っていくかはその人次第です。能力によっては1発でグリーンに乗せる人もいるでしょうし、5回にきざむ人もいます。池越えを狙う大胆な人もいれば、池の手前で落として慎重を期す人もいます。PGAルールはありますが、それを守ってさえいけば、あとは個人が自由にプレーすればよいのです。

となると、親の役割、学校の役割、先生の役割はすべて変わってくると思います。従来のように、何番のクラブで、どこに打て、と命じてはいけないと思いま

す。最良の先生は「自分も分からないから、一緒に考えよう」と言って、子供たちと同じ目線で風を読み、ライを見て、クラブやスタンスの選択について助言する、キャデイのような存在が必要ではないでしょうか。そして若干勇敢なアプローチをすることを勧める、そういう勇氣のある人間を育てる。これが答えのない時代の先生の役割ではないでしょうか。

誰も正しい答えは分からないのです。たとえば、アメリカのサブプライム問題の解決策は、バーナンキFRB（米連邦準備制度理事会）議長もブッシュ大統領もわからないのです。だから、わからないことは恥でもないし、恐れる必要もないのです。「自分はこう考える」ということを論理的に説明できることが大事なのです。

その力を養成する方法は意外に簡単ではないでしょうか。現場から発想すること、それしかないのです。

たとえば、近所の魚屋に行って、魚屋のおじさんはどうやって生活しているのかを考えてみる。売れ残った魚は腐る。しかし、腐った魚を捨てたら儲からない。一家は食べていけませんからね。では、どうしているのか。それを子供たちと先生と一緒に考えるのです。すると、腐るほどたくさん買わない、鮮度が落ちたら焼いたり煮たりして売るなど、工夫していることがわかります。これは非常に身近な例ですが、商売に必ず儲かるマニュアルはないのです。身近な問題から考える癖を、小学校の頃からつける必要があるのではないのでしょうか。

あるいは、先ほど述べましたサブプライム問題のように誰も解決策がわからな

い問題に対してどう対処するのかということ、中学レベルから考える癖をつけてはどうでしょう。具体的には、インターネットなどで事実だけを集めて自分の仮説を組み立ててみる。評論家になるのではなく、自分がバーナンキ議長だったらどうするか、ブッシュ大統領だったらどうするか、日本企業の財務担当だったらどうするか、と考えるのです。常に自分の問題としてとらえ、自分がその立場だったらどうするか言えるように努めるのです。そういう人間が、答えのない時代には非常に重宝であり、世界のどこでも通用する人物になるのではないでしょう。

教育で最も大事なことは「社会性のある人間を作る」「メシを食べていく手段を身につけさせる」ことでもあります。前者は義務教育の役目であり、後者は主に大学の役目であると考えます。ところが、この2つのコンセプトが日本の戦後教育では一番欠けていると私は思います。

教育長のお考えを賜りたいと存じます。

※（2回目の質問終了）

再質問 (3)

次に、具体例をあげて質問いたしたいと思えます。

(二)子供たちが、社会科をどのようにとらえているか。

※ 『社会科で育てる新しい学力』第5巻 国家発展への社会科の寄与 (有田和正監修・明治図書) より

私の考えを、具体的に質問したいと思えます。

教育長の率直なお考えを御答弁いただければと思えます。

① 子供がふれる教材

子供たちが社会科をどのようなにとらえているのか、端的にわかるのは、子供たちに流通している社会科の問題集を見ればわかります。

(問題集の例) 石器に絵が描いてあり、

「この道具はそれぞれ何と何というのですか？」

「文中のAにあてはまる国の数をかきなさい」

「Bの文中の下線部の女王を何と申しますか」

「次のア、イ、エの文のなかで、Bの文にあてはまるものを二つ選び記号で答えなさい」

「何という古墳ですか」

これが、子供たちにとっての今の社会科の姿です。

知識注入型に沿った問題が作られ、子供たちのやる問題には、その知識のみを問う問題が出されています。

これは、中学入試、高校・大学入試にも同じような傾向がみられます。玉野市の採用試験は如何ですか。

知識思考でしか評価できていないということが、子供の意識に知識だけが大事だということを植え付けていると考ええます。

子供はどのようにとらえているのか。ズバリ暗記教材としてとらえていると思えます。

世界史の未習問題には、こういったことが土壌になっっていることから、知識の総量の多い世界史ではなく、知識の総量の少ない日本史に流れるというのは、暗記教材としかとらえていない学生と、出題のあり方が問われていると考えます。教育長の御所見を賜りたいと思えます。

② 子供たちは、どのようにして 社会科を学んでいるのか

出口（テスト）が①の「子供がふれる教材」であげた問題で構成されている以上、それにそった学習をしているというのは、当然の理であります。

教師は、授業の中で発問し、調べさせ、考えさせ、板書^{ばんしょ}をまとめる。そして、最後にこういいます。

「今度テストをするので、今日やったことを覚えてくるのですよ。」

そして、テストには、知識を問う問題が出るのです。

授業でやったはずの、関係性、歴史のストーリー性、それに関わる歴史の些細^{ささい}な事実にはふれられずに終わります。

子供たちは、家であるいは放課後にこの問題には、この答えというように覚えてくるのです。

社会科とは、覚えてくる教科であるにとらえられていると思います。

教育長の御所見を賜りたいと思います。

③ 社会が求めている 人間像とは何か

今の時代は大きな変革をみせ、10年前には考えつかなかった商品、ツールがあふれています。

なにせ、携帯電話でテレビを見ようという時代です。しかもあんな小さい画面を横にすることによって、テレビを見やすくすることによって売り上げを大きく伸ばしています。

10年前にそんなことをいったら、どうだったでしょうか。きっと馬鹿にされたのではないのでしょうか。

今の世の中では、新しいことを考え出す人間こそ求められているのです。

新しいことを考え出す要素について何かを、考えてみました。

まず、(イ) 疑問をもつ

つぎに、(ロ) 調べる・考える

そして、(ハ) 書く・表現する

ことができる、ことだと思えます。

(イ)・(ハ)については、鍛えられる技能だというのは、異存のないところでしょう。

(イ)というのは、個人の資質の問題ととらえられがちですが、そうではなく、鍛えられる学習技能だと思います。

そこで、具体的な例をあげて質問いたします。

※ 以下引用 (学習技能を鍛えて「追及の鬼」をそだてる P18)

子供たちのいろんな能力の中で、いちばん劣っているのが「問題(はてな)を発見する能力」であると考えます。

聞くところによると、この傾向は子供

だけではないらしいのです。大人もそう
だということです。

いわれたこと、命令されたことはやる
が、それ以上のことはやらない。やらな
いというより、気づかないという。つま
り問題発見能力がないのではないかと思
います。

(略)

国語の文章の例で恐縮ですが、実践例
があるのであげてみました。1988年
の4年下の教科書(教育出版)の説明文
に、次のような一文があり。一番最初の
書き出しの部分に。

川田君の隣の席に座っている山下さん
の筆箱には、いつもきれいに削られた鉛
筆がたくさん入っています。

「この文章を読んで『はてな?』という
問題を考えなさい」と指示をしています。
できないときは、教師が出してみせる。
と、なっています。

i 「きれいに削られた」とあるが、削
る道具は何だろう。

ii 「きれいに」とは、どのような状態
であろう。また鉛筆の先を鋭くすると逆
に学習に支障があるのではないか。

iii 「いつも」するのは、性格によるも
のだろうか?

iii いくつかによるものだろうか?

iv 「たくさん」とは、どのくらいの量
であろうか?

v 「きれいに削られた」鉛筆を「たく
さん」一度に詰め込むと折れてしまう心
配があるのではないだろうか。それより
は、休み時間ごとに鉛筆先をとがらせれ
ば十分なのではないだろうか。

というような「はてな」ができてきます。
疑問「はてな」をもつという技能は、
あくまで鍛えられるものなのであると考

えます。

そして、この能力こそ、今社会に必要とされている、力の一つであろうと思います。

教育長の御所見を賜りたいと思います。

④ 実学としての社会科

今から、君たちに宿題を出します。これから、一週間必ず試食をしてもらっしやい。

これは、先生から子供たちへの指示です。

同じ指示を子供たちの2年生のクラスに出してみる。折しも生活科でお店屋さん探検隊に行った後でした。

その報告文書から、

【その1】

今日、せいきように、おにいちゃんと、おかあさんと、瑠美でいきました。

火曜日に行ったときは、ししよくはありませんでした。

どうしてかなとおもいました。

2年 近藤 瑠美

【その2】

きょうは、ビッグハウスにいつてししよくをしました。したのは、オレンジときらいなキュウリと、イカリングを食べました。食べたなら、どうしてししよくがあるのか？

味見をするためだとおもう。

今日は、きらいなきゅうりがおいしかったです。

2年 明月 楓

この2つの例から、教室では得られない知識が、集約されてくるのがわかります。

実際の「はてな」から、スーパーという姿が、生き生きと現れてきて。

そこには、雑多と思える情報も入ってきています。

それを関連づけてやれば、おのずと、全

体像が浮かび上がってきます。

それは、知識注入型によって、教えられるスーパーよりも細部にわたる情報も集積されて、非常にはつきりとした形を、子供たちに与えることができると思います。

また、これは子供自身が獲得してきた情報になります。

社会に出て、自ら疑問を持ち情報を獲得してくる者と、そうでない者の差は歴然としていくと考えます。

さらに、

前提を嫌い、質問する力こそが大切だと大前研一氏は、指摘しています。

引用(質問する力 大前研一 文春文庫p20)

図書館に行つて、1991年から1995年までの新聞や雑誌を見てみました。

その頃、政府や住宅金融公庫、住宅情報雑誌、不動産会社そして評論家と呼ばれる人たちが、家を買うということがいついて、何を言っていたかがわかります。人や時期によって微妙なニュアンスの差がありますが、おおむね次のような意見に集約されます。

「80年代はずっと不動産価格は右肩上がりで上がってきたけれども、90年代に入り、初めて価格が下がってきました。物件の価格が下がっただけでなく、金利まで下がっています。これらはいずれも景気が回復すればまた上がるはずのものです。ですから、家を買うとしたら、今はめったにないチャンスであり、二度とこない最良の時期です。」

(略)

今がチャンスだ、今買わねば一生家は買えない、そう考えて、日本全国の600万人の人たちがローンを組んで、(首都

圏では2時間以内という通勤圏の中に、
全国で家やマンションを買ったわけです。

しかし、その後の地価は、政府と業界
の言ったとおりになりません。9
0年代を通じて下落が続く、その後もし
わじわ下がって2002年にはバブル前
の水準に戻ってしまったのです。

これは政府と業界が勧めた、国民が利
用された好例です。

(略)

しかし、しかしです。

もし、この時、この人たちがこう質問
していたら、いぶん状況は違っていたと
思います。

■ 『住宅情報』という雑誌を読むと今が
買い時のように思われるけれど、この『住
宅情報』をだしているリクルートとい
うのはどういう会社なのか」

■ 『住宅情報』という雑誌の収支はどう
なっているのか」

【質問する力 大前研一 文春文庫】より引用

こうした例からも、子供たちに社会科
を実学として、また様々なことに疑問を
もち、追及（質問）できる技能を子供た
ちに与える必要があると考えます。

そうでなくては、新しいこと、価値あ
ることを生み出す力だけでなく、この世
の中を生き抜く力を鍛える機会を与えな
いことになると思います。

教育長の御所見を賜りたいと存じます。

⑤ 出題と入試の検討

子供たちは、最終的な形を見すえているものです。

最終的な形が、

問1 Aの建物を(イ)何といいますか。

(※Aには金閣寺の絵が描いてある。)

また、これ(ロ)を、建てたのは誰ですか。

(イ)

(ロ)

問2 鎖国を始めたのは、誰ですか。

()

問3 日本が第二次世界大戦に敗れたの

は何年ですか。

()

年)

というのでは、結局のところ何も変わらないということになりかねません。

つまりは、子供に親切すぎるのです。

その問題に甘えた学習しか、子供たちはしないものです。

これは、問題の問い方を変えなくてはいけないと思います。

社会科の授業で最後に行われる、「書く、表現する」という要素を中心にテストを構成する必要があると考えます。

以下のような問題ではどうでしょう。

○ フアラオに科された義務のうち、もつとも重要だと考える順に3つ列挙し、200字以内でその理由を書きなさい。

親切すぎるテストの形式から、文章を書く作業を伴う思考型のテスト形式へ変化させていく必要があると考えます。

特に、入試に関わる出題者の責任は、重いと思います。

教育長の御所見を賜りたいと存じます。

⑥ 社会科をよのちについで やぶとせむるか

論理的な思考の1つの型に三段論法（アリストテレスの法則）というものがあります。

「A \parallel B かつ、 B \parallel C であれば、
A \parallel C である。」

というものです。この論理型で、日本の社会の問題を考えると、「A \parallel B」で終わることになってしまいました。

「鎌倉幕府が作られたのは、何年ですか。」
「1192年」

この問いでは、決まり切った答えにしかありません。

これでは、思考停止状態に陥るのは自明のことでしょう。

この状態を脱するためには、「A \parallel C」にいく問題こそ大事になると考えます。

そのためには、問いから答えに行き着くまでの間あいだがあればあるほど、よいということになります。

この間かんに、調べ・考え・書き・表現する。

社会科は、覚える教科であってはなりません。「A \parallel C」を追求する教科でなくてはならないと私は思います。

教育長の御所見を賜りたいと存じます。

※（3回目の質問終了）

（三）これからの成功者と脱落者を分ける3つの「自問」

「学ぶことは、人生いちばん最高の贅沢な遊び」（小椋佳氏の言葉）でなくてはなりません。

今の時代にあって、ハングリーさを子供たちにもってもらうのは、難しいと思います。

だからこそ、追及（質問）することが「遊び」のように思えるようになるということが大事なことだと考えます。

そして、この社会科で鍛えられる「追及（質問）する力」こそ、これからの答えのない時代を渡っていくための、必要なスキルであると思います。

折しも、日本もアメリカと全く同じ状況になっています。

社会の活力がなくなってきた、あまり上昇志向もなく、中国・インドにやられるがまま、ニートは激増中・・・。そこから脱却するための訓練を始めるために・・・。

最後に、世界的な経済ジャーナリストである、ダニエル・H・ピンクの、これからの新しい時代の成功者と脱落者を分ける3つ指標を、ご披露して、私の一般質問を終わりたいと思います。

① この仕事は、他の国ならもつと安くやれるだろうか？

② この仕事は、コンピュータならもつと速くやれるだろうか？

③ 自分が提供しているものは、豊かな時代の非物質的で、超越した欲望を満足させられるだろうか？

この3つの質問は、成功者と脱落者を分ける指標である。

つまり、今後は海外のコストの安い労働者にはこなせず、コンピュータが人よりも速く処理できないような仕事に集中し、繁栄の時代の美的・情緒的・精神的要素に応えられる、個人や組織が成功することになる。

この3つの問いを無視する人は苦しむことになる。ダニエル・H・ピンクの感覚、つまり、21世紀は優れた個人のもとで企業が栄えるというのが結論です。

だから、21世紀は、いかにそういう突出した個人を育てるにかかっていると思います。

（これで、私の一般質問を終わります。）
ご静聴ありがとうございました。

二、深山公園の南入口の封鎖と、市民サービス

について、質問と提言を行います。

去る五月14日から、深山公園の南入口が封鎖されています。

1,

① その進入路封鎖の理由と目的？

① 玉野市都市公園条例 第7条の摘要

② そもそもその深山公園の設置理由と目的？

②

③ それぞれ、関係当局の御所見を賜うたうえで、市民サービスについて、解決策を探りたいと思います。

③

(1回目の質問を終わります。)

2.

① 昨日私も市民の方々と一緒に、当地

を散策してみました。

さすがに暴走族が走りたがるだけあって、800メートルの傾斜はきつかったです。

また、カーブも右へ左へときつかったです。

傾斜もカーブもきついのですから、歩行者の肉体的負担もきついのは当然です。

そもそも、私の所へ深山公園の南口の封鎖に相談にいられた方々は、後期高齢者の方々でした。

昨日わたしが歩いたとき、たまたま封鎖を知らない他の方々10数人に合いました。

不満を言って諦めて帰られる人。

不満を言いながら、深山公園を指す人がおられました。

そもそも、当地から進入される方々のご意見は、総称して、「親水公園が一番近い駐車場からですと、2〜30メートルの所にあつて、障害者を車いすでも簡単にお連れすることができると、利便性の良さを訴えておられました。

費用対効果もあると思いますが、当局の統計では、南口を利用なさる市民の利用者数と、障害を持った人の利用者数は把握されていませんでしょうか？
また、暴走族の人数等は、何人いるのでしょうか？

② **部長の御答弁から、・・・。**

③ 市役所の常識でなく、市民の視線に立って客観的に（市役所）を見たら何が見えてくるのか？

④ 何が市民サービスなのか？

⑤ 何が市役所に足りないのか？

⑤ 協働の街作りとは何か？

被害地域の皆さんにも管理に関わっていただくとか・・・。

3. ① 玉野市の一人当たりの医療費は、岡山市や倉敷市に比べて、約一四万円高であると記憶していることから、市民の健康増進を図るうえからも、深山公園の南入口は、開放すべきべきではないかと考えますが？

② 対策としては、封鎖のバリケード管理を、民間に委託して、午前4時か、5時に開放してもいいのではないかと？
そうした細かいサービスが、今時代は求められているのではないかと？

4. **最終**

市民サービスとは、市と民が一生涯安心して快適に暮らすことができるよう、自治体が行うサービスではないでしょうか？

市民の方々から、職員数が多すぎるのではないかと等のご指摘も受けます・・・。

関係当局の市役所の常識ではなく、市民の視線に立った市民サービスを求めて、私の質問を終わります。

ご静聴ありがとうございました。